

シグマ委員会幹事会議事録

場 所 日本原子力研究所本部第1会議室
日 時 昭和43年2月29日 13:00~17:00
出席者 百田 中島 桂木 飯島 岩城 五十嵐

議 事

1. 43年度計画と核データ・センター設立の経過について

先に原子力局の内示額が1,800万円であった43年度の予算は大蔵省の査定で1,000万円になり、また増員は0であったこと、核データ・センター設立が不可能になったこと、それに代って核データ研究室として発足する案が出ていること、そうすると所内から専任の研究者が1名必要であること、シグマ委員会のワーキング・グループの活動予算は42年度なみかそれ以下になること等が報告された。

2. ワシントン会議について

第2回 Neutron Cross Section Technology Conference が3月4日~7日までワシントンで開かれ日本から3件の報告がでる。これに中島委員と百田主査が出席する。引き続きモントリオールでEANDCが開かれるので、百田主査が出席する。

3. 中島委員の出張について

CCDN でCINDA の improvement のため中島委員が Visiting Scientist として5月末まで出張することになった。

4. Numerical Data (主として SCISRS) の入手データの取扱い方法について

- 1) 入手は JNDC を通すこと。
- 2) 入手 data の list を JNDC におくこと。
- 3) published data かどうか注意し unpublished data の類は

authorの許可を得てから使用すること。

5. 中性子断面積研究会の反省と今後の計画

今回は開催決定が急であったため世話人側は苦しかった。開催予定の目安(話題の選定等)が必要である。43年度は8月頃にシグマ委員会総会の形で資料紹介を中心に勉強会を予定する。別に熱化の研究会等も話題になった。

6. 海外コード整備委に対する要望

シグマ委員会から委員を出すことを要請する。委員として飯島、五十嵐委員が推せんされた。

7. その他

1) 高速炉から炉定数グループに西村氏を参加させたい旨、能沢委員から申し入れがあった。

2) 熱化グループの異動

後藤氏(原研) → 綾尾氏(原研)

松岡氏(日立) → 芳賀氏(日立)

3) 運営委員の交代

寺沢氏(日立) → 松岡氏(日立)

4) 原子力学会企画委員会にシグマから代表を出したらどうか(岩城)

との話があり、主査から五十嵐委員を推せんしたいと答えがあった。

本人は他の人を希望。

5) 次回運営委員会は3月25日(月)東京を予定。